

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助訓練を実施中、前方の隊員に後方の隊員が衝突し、後方の隊員が負傷した事例。
3. 体験した事例の中心的要素	救助技術大会の障害突破種目の訓練において、2名1組での煙道通過訓練を実施中に、前方の隊員が隊員間を繋ぐ検索ロープに引っ掛かり転倒したため、後方の隊員が前方の隊員の足部に衝突し、顔面を負傷したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	前方の隊員が急停止するはずは無いと思い込み、前方を確認せずに前に進んだこと。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20年 6月 7日 午前 11時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：障害突破訓練用煙道内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助（大会に向けた訓練）]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：救助大会（障害突破）訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士]、同様の活動[1年に数度]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[31]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士]、同様の活動[1年に数度]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	AとBが	互いの体をロープで結着する	
経過2	AとBが	煙道内にB、Aの順で侵入する	
経過3	Bが	煙道内で急停止する	
経過4	Aが	急停止したBの足部に衝突する	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。足元の安全が確保できていなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：このような事態が起こりうると認識していなかった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

今回の事例では、この訓練に熟練した前方の隊員に、訓練初経験の後方の隊員が必死について行こうとし、前方の確認を怠り、突然の事態に対応できなかった。これに関しては、前方の熟練した隊員が後方の隊員に配慮し、後方の隊員は訓練を重ね、技量を向上させることにより、焦りが生じにくいと考えられる。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

隊員の周りには安全管理員がいるものの、発生場所は安全管理が行き届きにくい場所であったことから、未然に事故を防ぐことは困難であった。また発生場所は地面にロープが散乱しており、足元が非常に滑り易くなっていたが、訓練の性質上隊員個々が、事故発生の認識を持つことで不慮の事態に起こりうると訓練前から認識し、訓練に臨む必要がある。

○指揮・情報伝達の対策について

現場拡大図

